

# CAJ NEWS



Communication Association of Japan Newsletter

日本コミュニケーション学会ニュースレター

創立昭和46年  
(Founded 1971)



"point of view"

photo by Arata Miyazaki (中部支部)

## CONTENTS

107  
2014.10

1. 巻頭言 会長就任挨拶	..... 1	支部ニュース：北海道支部	.....16
2. 前会長退任のご挨拶	..... 2	支部ニュース：東北支部	.....16
3. 第44回年次大会報告	..... 3	支部ニュース：中部支部	.....16
4. 2013年度第3回理事会報告	..... 4	支部ニュース：関西支部	.....17
5. 総会報告	..... 8	支部ニュース：中国・四国支部	.....17
6. 事務局報告	.....10	支部ニュース：九州支部	.....17
第45回年次大会発表募集	.....11	10. コラム：コミュニケーション教育	.....19
7. 事務局報告	.....13	11. CAJ2014年度役員一覧	.....20
8. 広報局便り	.....14	12. メールアドレス登録のお知らせ	.....21
9. 支部ニュース	.....16	20. 編集後記	.....21

## 巻頭言

### 会長就任挨拶：さらなる発展のために

CAJ 会長 五島 幸一 (愛知淑徳大学)

今年の夏は、猛暑の日があったかと思うと、また地域によっては豪雨に遭うなどして、天候の不順に振り回されました。災害も多く出ましたが、皆様方は大丈夫でしたか。

去る6月の年次大会の総会で会長の重責を担うことを承認されました。前宮原会長が学会の変革を目指したように、私も当学会の発展の一助となるように努力したいと考えており、新会長としてご挨拶申し上げます。

まず、6月21日・22日両日、琉球大学で「コミュニケーションと平和」のテーマで開催しました第44回年次大会では、開催校、また九州支部の会員の方々の、多大なご尽力によって、成功を取めることができました。ありがとうございました。沖縄という場所での開催は、「平和」を深く考える良い機会になったと確信しています。

私自身、この日本コミュニケーション学会への入会は、遡ること30年以上も前のことで、日本太平洋コミュニケーション学会 (CAP) と呼ばれていた時でありました。若輩の駆け出しとして1981年に学会で発表した時には、この領域の研究者はまだ少なく、年齢も比較的若い研究者の集まりであったと思います。当時、巷では「コミュニケーション」という言葉が様々な分野で流行っていましたが、まだまだその研究領域が正確に認知されていなかったように思いました。その後、数多くのコミュニケーション研究者が海外、とくに米国で修学し、日本に戻って教鞭をとるようになりました。これで、コミュニケーション研究が広く認知されたか問われると、まだまだ取り組むべき課題は多いと思います。この現状に対して、次のような方策はいかがでしょうか。

コミュニケーション研究は現実の社会との関係も強いため、どのような社会貢献ができるのかを問うことが必要になります。例えば、米国では、メディア研究が重視されており、“Hyper Local Media”と称されるネットジャーナリズムの必要に迫られ、大学が地域にその領域に関する知識を提供しています。具体的には、そのネット配信に関わる一般の人々にメディア学およびコミュニケーション学の知識を学べるような機会を提供しています。国内においては、医療分野で「コーチング」という対話によって相手の潜在能力引き出すことが行われています。ここでもコミュニケーション学が支援できる分野ではないでしょうか。

また、競争的資金の獲得があります。現代GPおよび特色GPが発展的に解消され、平成20年度からは教育GP「質の高い大学教育推進プログラム」が始まりました。この申請においてはコミュニケーション教育が学部教育としてカリキュラムに組み込まれていることが前提とされています。それにもかかわらず、コミュニケーションという言葉で連想される領域が一般の人々にとっても、また他領域の研究者にとってもあいまいであるため、教養としての位置づけから脱却していません。その意味においても、専門性の高いコミュニケーション教育プログラムを見せる必要があると考えます。

このように現状に立ち向かい、コミュニケーション研究の存在感を高めるには、会員皆様と学会の連携が必要になります。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。





## 前会長退任のご挨拶

前CAJ会長 宮原 哲 (西南学院大学)

本学会が「太平洋コミュニケーション学会」として創立された1971年、私は高校1年生でした。当時60歳の地理の先生が、「こないだの戦争ではね…」と言われるたびにクラス中がクスクス笑っていたのが、つい最近のことのように思い出されます。大学で学生に、「『こないだ』って、大体どの位さかのぼるのかな」と尋ねてみたら、「そうですね、せいぜい2週間でしょね」と言う。年代が違うと異文化です。



人間だけが頭の中で言葉やイメージなどのシンボルを使って、過去のことを振り返ったり反省したりし、それを未来のゴール設定に利用します。「過去の自分」と「未来の自分」との間で会話し、「今・この自分」に大切なことを伝える力を持っています。

会長として、4年プラス前会長の残任期間1年を加えて5年務めました。過去、未来といっても短・中・長期の幅があります。学会にとって短期といえば、年次大会での分刻みの発表時間から、学会誌に投稿する論文やその査読の締め切り、それに年次大会に向けての準備を進める理事会の開催など、月単位までがそれに当たります。中期は年次大会から次の大会までの1年から、理事の任期など、2~5年くらいまでを指すと言えます。献身的な各局長と理事、それに会員の皆様のおかげで、会長として短・中期の仕事は何とか果たすことができましたと思っています。お世話になりました。

しかし、大切な長期の展望や計画については「たれば」だらけです。たとえば「コミュニケーション能力」や「グローバル人材」といったことばや、それらを育てるための教育、研究の必要性がこれだけ認知されている割には、本学会の存在意義や研究課題を明確にしたり、他の学会や海外の機関と連携して共同研究をしたり、文部科学省と協働できていたら、と反省が先に立ちます。異文化、語学教育やメディア関連の学会が発足し新会員を獲得している間、本学会が他の学会とは異なる存在意義を示し、新会員を多く獲得するには至りませんでした。

今後も長期的展望を見据えた上での短・中期の運営が求められます。これからは微力ではありますが尽力したいと願っています。来年は私も当時の地理の先生のように還暦を迎えます。10年後、20年後「こないだまでは『コミュニケーション』って、今ひとつ分りにくかったけど、今はこの学会のおかげで…」と言われるような研究、教育に共に努力しましょう。

## 第44回年次大会報告

大会実行委員長 兼本 円 (琉球大学)

第44回CAJ年次大会は2014年6月21日(土)、22日(日)の両日、琉球大学で行われました。至らない面も多々あったと思いますが、皆様のご協力のお蔭で無事終了することができました。実行委員一同、この場を借りて感謝申し上げます。

今大会のテーマは「コミュニケーションと平和」でした。このテーマは私共沖縄に住む会員にとって大変意義深いものでした。特に、大会終了後の翌日が「慰霊の日」となっていたからです。この場で思い起こすことを2、3記したいと思います。大会途中で沖縄の会員の1人から、「私たちは祖国復帰の日より、慰霊の日を意識している」という趣旨の発言がありました。日頃一緒に仕事をしている者からこの種の意味の深い発言を聞いたのもこの沖縄という場と大会テーマを選んで頂いたCAJの皆様のお蔭だと思っております。

基調講演は津田塾大学名誉教授のダグラス・ラミス先生で、「コミュニケーション論による『憲法』の分析」と題して講演して頂きました。その日21日(土)は気温が31.7度、屋外は殆ど無風状態と大変暑かったのですが、先生は学会員に敬意を表するという意味でネクタイとスーツの正装で熱演なさいました。そのせいか途中で体温調整が難しくなり、体調を崩されました。しかしながら、先生のお伝えしたかったことは十分に皆様へ届いたのではないかと思います。因みに、学会終了数日後に先生は地元でご講演をなさっていますので、すぐに健康を回復なされたと思います(ご心配の方々もいらっしゃると思い、敢えてここに記しました)。



基調講演 ダグラス・ラミス先生

実行委員長をしていた私は全ての講演・研究発表・パネルディスカッションを聞くことは叶いませんでしたが、他の委員と大学院生から何れも興味深く充実していたとの報告を受けました。



懇親会は学内の北食堂で行いました。沖縄料理、和食、洋食のまさに「チャンプルー」になりました。余興としては学生のサークル「八重山芸能研究会」に2、3の演目を披露させて頂きました。翌日22日は2日目の大会と「平和学習ツアー」が控えているにも拘わらず、先生方には最後のカチャーシーにも笑顔で応じて踊って下さいました。ありがとうございました。

最後に、お世話になった会員の皆様と関係者各位に感謝を申し上げて、45回大会の成功をお祈りしたいと思います。イッペー、ニハーデービタン(本当にありがとうございました)。



## 2013 年度 第3回理事会報告

日時：2014年6月20日(金) 15時-17時

会場：琉球大学 文化総合棟 会議室 202-A

出席：宮原、五島、青沼、野中、鳥越、守崎、吉武、師岡、清宮、高永、小山、高井、丸山、町田、小林、綾部、福本、伊佐 (18名)

欠席連絡：石橋、森口、ライネルト

### 【報告事項】

#### 【1】会長挨拶

新年度の人事およびニュースレターのデジタル化など、今年度は CAJ にとって変化の年であるため、更なる発展のためにも新旧理事の協力が不可欠であり、学会の将来に関わる重要課題の審議に向けて建設的な意見を期待する旨を述べられた。

#### 【2】年次大会関係(清宮)

##### 1. 準備状況

- ・ 大会準備は兼本実行委員長の下で予定通りに進んでいるとの報告があった。
- ・ オンラインでの事前参加登録は69名との報告があった。

##### 2. 懇親会

- ・ 懇親会の事前申し込みは約40名との報告があった。
- ・ 懇親会後のバス送迎についての説明があった。

##### 3. その他

- ・ 当日の受付業務、学会賞授与、総会の手順について再確認を行った。

#### 【3】各局および担当理事報告

##### 1. 各局

##### (1) 事務局 (五島、野中、鳥越)

- ・ 入退会者および会費納入報告 (鳥越(代理))
  - ・ 2014年6月16日現在で、一般会員423名、学生会員8名であり、入会者0名、退会者10名、会費未納23名との報告があった。
  - ・ 各支部会員数：北海道=正会員27名。東北支部=正会員19名。関東支部=正会員176名、学生会員5名。中部支部=正会員43名。関西支部=正会員78名、学生会員1名。中国・四国支部=正会員22名。学生会員1名。九州支部=正会員53名。海外=正会員5名、学生会員1名。

##### (2) 広報局 (高永、小山)

- ・ ニュースレターの発行 (小山)
  - ・ 紙媒体としての発行は最後となるニュースレター第106号を発行し、107号の編集に関わるスケジュールはこれまでと同様に進める旨報告があった。
- ・ 第44回年次大会の広報活動について (高永)
  - ・ 年次大会公開シンポジウムについて、関連学会に通知を行ったとの報告があった。
  - ・ 年次大会プログラムの広告・展示協力企業は、当初の予定通り広告が9社、展示が2社であるとの報告があった。
- ・ Web関連 (高永)
  - ・ 学術局と連携し、大会プログラムおよびチラシをHPに掲載し、参加申し込みサイトのリンクもHPに掲載したとの報告があった。

- ・ 学術局および琉球大学と連携し、会場までの道案内を動画でHPに掲載したとの報告があった。
  - ・ 最新のニュースレターをHPに掲載したとの報告があった。
  - ・ 2件の教員公募を掲載したとの報告があった。
  - ・ その他 (高永)
    - ・ ホームページ担当理事の引き継ぎを行ったこと、また円滑な運営のためにこれからも打ち合わせを重ねていく旨報告があった。
    - ・ HP上に会員情報を掲載するにあたり、検討すべき事項や他学会の事例などについて説明が行われた。
- (3) 学術局 (守崎・吉武・師岡・清宮)
- ・ ジャーナル関連 (吉武)
    - ・ 『日本コミュニケーション研究』の第43巻第1号には7本の応募があった。現在査読を進めており、第2号の募集も行っているとの報告があった。
    - ・ 『日本コミュニケーション研究』は旧ジャーナルのISBNナンバーを引き継いで使っていたが、今後新しいISBNナンバーを付けるための登録を行うよう国立国会図書館から要請があったとの説明があった。
  - ・ 学会賞関連 (守崎)
    - ・ 書籍(教科書・啓蒙書)の部に1件、論文の部に3件の応募があった。審査の結果は以下の通り：学会賞(論文の部)：松永正樹著「女性いじめ被害者の性的リスク：周囲からのサポートの役割に関する、二つの実証研究結果報告」。
  - ・ その他(清宮)
    - ・ 沖縄コンベンションビューローから、年次大会準備予算の半額程度である約40万円の補助がある旨報告があった。

## 2. 各担当理事

### (1) 研究会

- ・ 報告事項なし

### (2) 海外渉外 (高井)

- ・ 2016年度に福岡で行われるICA年次大会について報告があった。報告の内容は以下のとおりである：現在ICA事務局長と打ち合わせを行い、CAJとの共催にするべきかどうか検討中である。ICAとCAJの参加費の差や発言語が英語のみになるという状況に鑑み、ICAと共催ではなく、ICA開催中に西南学院大学でCAJを開催し、お互いを行き来できるようなシステムを計画中である。

### (3) 企画

- ・ 報告事項なし

## 【4】支部報告

### 1. 北海道 (町田)

- ・ ニュースレターの発行を行った。また、5月に行った支部役員会議において、長谷川聡氏が次期支部長として承認されたとの報告があった。

### 2. 東北 (小林)

以下の報告があった。

- ・ 次期支部長には川内規会氏が就任する予定である。
- ・ 支部大会は11月8日(土)に開催を予定しており、学術局のセッションも例年通り行うことを検討中である。
- ・ ニュースレターを紙媒体から電子版へ移行した。今後の様式は検討中である。



## 3. 関東 (師岡[代理])

- ・ メーリングリストを Yahoo グループサービスから Google グループへ変更したと報告があった。

## 4. 中部 (福本)

以下の報告があった。

- ・ 藤巻光浩氏が次期支部長として就任する予定であること。
- ・ ニュースレターを発行し、HP にも掲載中である。
- ・ メーリングリストを Google グループへ変更した。

## 5. 関西 (守崎[代理])

- ・ 次年度の支部長として守崎誠一氏が就任する予定であると報告があった。

## 6. 中国・四国 (高永[代理])

- ・ 支部大会を 12 月 6 日(土)に松山市、愛媛大学ミュージズ 3F にて行う予定であると報告があった。

## 7. 九州 (伊佐)

以下の報告があった。

- ・ 九州支部 20 周年記念誌を作成中であり、6 月下旬に入稿予定である。
- ・ 10 月 4 日(土)に大分「ホルトホール大分」にて支部大会を開催予定である。テーマは介護・福祉とコミュニケーションを予定している。
- ・ 九州支部紀要は 11 月に発行予定である。

**【審議事項】****【1】 第 44 回年次大会**

審議事項なし

**【2】 2013 年度決算案 (鳥越)**

## (1) 収入の部

## (2) 支出の部

※本事項については情報の性格上、公開を控えることになりました。なお、会員の方々には学会誌『日本コミュニケーション研究』をお送りする際に文書で報告します。

**【3】 2014 年度予算案 (鳥越)**

## (1) 収入の部

## (2) 支出の部

※本事項については情報の性格上、公開を控えることになりました。なお、会員の方々には学会誌『日本コミュニケーション研究』をお送りする際に文書で報告します。

**【4】 人事について (宮原)**

※p.20 の日本コミュニケーション学会 2014 年度役員一覧をご覧ください。

**【5】 第 45 回年次大会**

名古屋で開催を予定しており、開催校については現在検討中である。テーマは未定であり、今後事務局で選定する予定である。

**【6】 ニュースレターの完全デジタル化に伴う諸問題について (小山)**

以下の点について審議が行われた。

## (1) 発行様式について

PDF形式、メールマガジン、ウェブという三つのオプションそれぞれの利点と欠点について小山副広報局長より説明があり、審議を行った。その結果、ウェブ上での見やすさという点では他のオプションに劣るが、作業やバックナンバーの保存がしやすいという点で、まずはPDF形式での発行をすることが決定した。

## (2) 局員について

理事の負担が大きいため、広報局員を増やしてサポートをしてもらいたいとの提案があり、それに対して会長も同意をした。理事会には出ないが、各局の運営のサポートをする局員を増やすことで、継続性や効率が高まるという意見が出た。

## 【7】 次回理事会開催日時・会場

2014年12月13日(土)、丸の内サピアタワー内会議室にて開催予定。

※決算書・予算書につきましては、学会誌『日本コミュニケーション研究』の送付時に同封してお送りします。



## 総会報告

(2014年6月21日 14:40-15:40)

1. 総合司会の五島幸一事務局長より、総会の開始が宣言された。宮原哲会長、開催校の琉球大学の崎浜盛康・法文学部長より、歓迎の挨拶が述べられた。
2. 守崎誠一学術局長より、最優秀論文賞受賞者の松永正樹氏(論文の部:「女性いじめ被害者の性的リスク: 周囲からのサポートの役割に関する、二つの実証研究結果報告」)が紹介され、宮原会長より同氏に賞が贈呈された。
3. 引き続き、五島事務局長より会員向け報告・審議を行う旨が宣言され、町恵理子会員(麗澤大学)の議長就任が、拍手で承認された。
4. 町議長より、会則39条では、「会員総数の5分の1以上の出席」が議決の条件であることが確認された。それに基づき、現時点における会員数423名の内、総会出席者56名、委任状83通の合計139名(会員数423名÷5=85名)で、総会が成立したことが確認された。また、森口稔副事務局長の書記就任が、拍手で承認された。
5. 宮原会長より、2014年6月1日より発足した新体制、ならびに役員人事案が発表され、拍手で承認された。
6. 宮原会長より、2013年度事業報告として:(1)第43回年次大会の開催(2013年6月22日[土]~23日[日]、於:立教大学、大会テーマ:「コミュニケーション学と教育」)、(2)各支部大会の訪問(ただし関西支部だけは日程が合わず訪問していない)、(3)通常の3回の理事会開催、(4)ジャーナル『日本コミュニケーション研究』創刊号の刊行が報告された。

また、2014年度事業計画として:(1)年次大会を計画し現在実行中であること。(2)『日本コミュニケーション研究(Japanese Journal of Communication Studies)』の発行。(3)ニュースレターは次号が紙媒体としては最後の発行であり、それ以降PDFから順次完全デジタル化していく予定であること。が、それぞれ報告された。

最後に、2015年度・第45回年次大会開催地として名古屋(開催校および開催日程は未定)が発表された。
7. 鳥越千絵副事務局長より2013年度決算報告として、以下の点が示された。
  - 1) 収入
    - ① 「年会費収入」に関しては、前年度とほぼ同額。
    - ② 「年次大会参加費」項目内「懇親会参加費」に関しては、合計103名の参加者により増額。「広告費」は、昨年度承認された通り削除した。
    - ③ 「雑収入」項目内「電子図書サービス関連」は、昨年度に引き続き増収。
    - ④ 「その他」の項目として、沖縄コンベンションビューローから補助金があった点を含めた。
  - 2) 支出
    - ① 「ジャーナル発行費」に関しては、550部を発行し、50ページ多くなったため、前年度に比べると30万近くの増額となった。

- ② 「ニュースレター費」は、今回はまだ印刷費がかかったが、電子化の後は支出も減額が見込まれる。
- ③ 「ポスター制作費」は、誤植があったため、チラシ修正刷りの費用が発生した。
- ④ 「会議費」項目内「理事交通費」に関しては、欠席者等があったため少なくなった。
- ⑤ 「事務費」項目内「事務委託費」は、学会支援機構に対する基本料となっている。
- ⑥ 「学術事業費」項目内「学術局セッション出張費」に関して、沖縄視察に対し沖縄コンベンションビューローからの補助金を充てている。
- ⑦ 「支部活動助成金」に関して、4支部から申請があった。そのうち、北海道支部は、前年度の助成金を今年度を含めているため、2回となっている。
- ⑧ 「予備費」項目内「その他」に関しては、東北支部20周年記念誌関連の予算を計上している。五十嵐紀子監事(新潟医療福祉大学)より、厳正な監査の結果、適正な会計処理が行われていることが報告された。上記の内容が、拍手で承認された。
8. 鳥越副事務局長より2014年度予算案として、以下の点が示された。
- 1) 収入
- ① 「年会費」に関しては、今年度会員数の現状に合わせて減額。
- ② 「年次大会関係費」項目内「大会参加費」に関しては、今年度は東京での年次大会に比べて少ないと考えられる点を考慮して作成。また、沖縄コンベンションビューローからの「助成金」を計上。
- ③ 「その他」として、平和ツアー参加費を計上。
- 2) 支出
- ① 「ジャーナル発行費」項目内「印刷費」について、発行部数は現状を維持として計上。
- ② 「ニュースレター費」は、印刷はこれまでと同様。
- ③ 「ホームページ関係費」に関しては、HP担当者が変わったため、HP作成ソフトの購入を計上。
- ④ 「年次大会関係費」項目内「講師謝礼」および「講師交通費」については、シンポジストが会員のため減額としている。「茶菓代」は現状に合わせて減額。「その他」に関しては、トップツアー手数料で、申し込み人数によって手数料が変わることがある。
- ⑤ 「会議費」および「事務費」は現状維持とする。
- ⑥ 「予備費」項目内「公務出張費」に関しては、会長による支部会視察のため現状に応じて増額。「その他」については、九州支部記念誌発行の費用を計上。
- 上記の内容が拍手で承認された。
9. 感謝状が、師岡淳也・前年度年次大会実行委員長に贈呈された。
10. 兼本円・第44回大会実行委員長および清宮徹学術局副局長より、事務連絡が行われた。
11. 司会の五島事務局長より、総会終了が宣言された。



左から、宮原前会長と  
師岡淳也 第43回大会実行委員長



兼本円 第44回大会実行委員長



総会の様子

## 学術局報告

### 2014 年度学会賞報

#### 学会賞：論文の部

松永正樹著「女性いじめ被害者の性的リスク：周囲からのサポートの役割に焦点をあてて」（日本コミュニケーション研究、第42号巻掲載）は、「いじめ経験」と「性的なリスク」の関係という社会的関心の高い事象の間にある直接的・間接的な関係について、精緻な定量的分析を用いて論じた優れた論文である。データに対する統計手法の選択、分析結果に対する解釈、研究の限界に対する真摯な指摘など、量的な調査研究に関心を寄せ、量的研究に携わろうとする研究者にとって範となる点が多い。本稿はその学問的な厳密さだけでなく文章の洗練度も高く、本論稿に対して2014年度の日本コミュニケーション学会「学会賞」（論文の部）を授与することとした。



左から、松永正樹先生と宮原前会長  
第44回年次大会 総会にて

### ジャーナルの投稿について

この2014年5月末に『ヒューマン・コミュニケーション研究』と『スピーチ・コミュニケーション教育』が統合された『日本コミュニケーション研究』(Japanese Journal of Communication Studies)の第42巻特別号が刊行されました。現在は11月末発行予定の第43巻1号の準備を進めています。年2回1冊ずつの発行となったため、投稿締め切り日も7月末と1月末の半年ごととなり、会員の皆様には投稿しやすいシステムとなっています。

現在、第44巻第1号への投稿論文を募集しています。締め切りは約3ヵ月後の2015年1月末日です（同年11月末発行予定）。投稿方法は、ワード等で作成されたファイルを指定メールアドレスに添付して送付してください。送付の際には、(1)「論文」、(2)「シノプシス」、(3)「ファイル作成に使用した機種を加えた著者情報」、以上3つのファイルを添付してください。執筆・投稿の詳細は、公式ホームページにある「研究論文集投稿規程」「学会誌執筆要項」を参照してください。

送付の際、ジャーナル専用アドレスに加え、編集委員長のメールアドレスにも「CC:」にて送付してください。メールアドレスは以下の通りです。

To: journal@caj1971.com

CC: vanas@yel.m-net.ne.jp

上述したメール投稿で受領の返信がない等の不具合、また、ジャーナル投稿に関するその他のお問い合わせは、ジャーナル担当理事・坂井 (vanas@yel.m-net.ne.jp) までご連絡下さい。迅速に対応いたします。

ジャーナル改革も一通り完了し、今後は査読システムをよりうまく機能させて、論文投稿者に教育的観点からのレベルアップの機会を提供し、結果的にジャーナルの質の向上を目指してまいります。

ジャーナルは年次大会とともに学会の大きな柱です。そして「日本コミュニケーション研究」は、その名の通り日本におけるコミュニケーション研究の未来を担っています。その未来を担う本ジャーナルの行末は会員の皆様の投稿にかかっています。どうぞふるってご投稿いただき「日本コミュニケーション研究」を共創していきましょう。

最後になりますが、学術局では吉武局長の下、共同運営を実施しています。今年度より編集委員長の任に就きました坂井も皆様と協議しながらコミュニケーションの生きた実践を行っていく所存ですので、今後ともお気づきのことがあればご指導のほどお願いいたします。

## 第45回年次大会 発表論文・企画セッション募集

日本コミュニケーション学会は、2015年6月13日(土)・14日(日)に、南山大学(愛知県名古屋市)で第45回年次大会の開催を予定しています。本年度の大会テーマは「コミュニケーションとジャーナリズム(仮)」です。このテーマに関連した多数の企画を準備すると同時に、会員の皆様からの研究発表を募集いたします。また研究発表だけでなく、会員の相互の研究関心と教育実践の質的な向上を共有する「企画セッション」を応募します。形式は、パネルディスカッション、統一テーマの論文発表、ワークショップなど、自由な発想のもと、90分間のセッションを使って、学会と国際社会に有効な企画をぜひお寄せください。

応募にあたりプログラムに掲載される要旨と大会プロシーディングス出版用の要旨の2種類をご提出ください：

- ① プログラム掲載用要旨：                   和文 800 字以内  
  英文 300 語以内
- ② プロシーディングス掲載用要旨： 和文 3000 字以内 (脚注を含む)  
  英文 1000 語以内 (脚注を含む)

いずれも、必ずA4版2枚にすべてを収めてください。なお、パネルなどの企画セッションに応募する場合、パネル全体としてそのセッションの概要を800字(プログラム用)と3000字(プロシーディングス用)の要旨に収め、発表者の要旨を別々に含める必要はなくなりました。詳しくは、CAJ ホームページのプロシーディングス投稿規定を参照ください。

応募の際は、メールの題目/subjectに「CAJ submission: 氏名」と必ず明記し、担当理事の森泉宛(moriizum@nanzan-u.ac.jp)まで電子メールでお送りください。応募の際、この手順に従っていただけない場合、自動的にスパムメールとして処理され、メールが行方不明となることもありますのでご注意ください。応募締め切りは2015年2月20日(金)となりますので、期日には十分にご留意ください。

大会の個人研究発表では、第一筆者(及び発表をおこなう当事者)がCAJの会員であることが規定によって定められています。応募時までCAJの会員登録をお済ませいただき、氏名の下に会員番号を表記下さい。また年会費の未納のため、近年、会員資格の失効が発生していますので、あわせてご注意ください。

発表申し込みに関しましては、学会ホームページ(<http://www.caj1971.com/>)でもご覧いただけます。活気に溢れた大会になるよう、積極的に発表申し込みをいただきたく、お願い申し上げます。



## Call for Papers for the 45th CAJ Annual

The Communication Association of Japan is planning to hold its 45th Annual Convention on Saturday, June 13<sup>th</sup> and Sunday, June 14<sup>th</sup>, 2015, at Nanzan University in Aichi. The theme of the Convention will be “Communication and Journalism (tentative).” CAJ will be inviting proposals for individual or panel presentations for competitive research papers dealing with any subjects of communication studies. Additionally, we would like to particularly invite a unique and quality session that contributes to the CAJ members and activates our membership activities. The format of this theme session may vary depending on the session’s objectives, such as a thematically organized paper session, a panel symposium, or a workshop. We appreciate your proposal that facilitates research activities and teaching practices as well as encourages information sharing beneficial for the CAJ members.

Those wishing to propose a paper presentation or a panel discussion should send an e-mail with a word file of the abstract as an attachment to Moriizumi, Deputy Director of Academic Affairs, at moriizum@nanzan-u.ac.jp by Friday, February 20<sup>th</sup>, 2015.

We will publish conference proceedings with abstracts. Two forms of abstracts should be submitted:

(1) For the convention program:

300 words or less in English or 800 characters or less in Japanese

(2) For the proceedings:

Maximum of 1000 words in English (including foot/endnotes) or

3000 characters in Japanese (including foot/endnotes)

The total volume of abstracts must be limited to 2 pages printed on A4- size paper. Refer to the Submission Guidelines for CAJ proceedings, and precisely follow the guidelines. Those who propose a panel or a theme session should submit a session overview of 2 pages maximum; abstracts of individual presenters are unnecessary.

Also, at your submission, please specifically type “CAJ submission:[name]” on the subject of your mail. Failure to specify the subject as such may result in identifying your e-mail as a spam so that the mail will automatically be disposed.

The first author of a paper as well as a presenter in the Convention is strictly limited in the CAJ members. If these responsible persons don’t have the CAJ membership, please join the CAJ before submission and indicate the membership number on your paper. We also recommend that you clarify your current status of the membership because it is often lost by not paying the annual fee.

Those of you interested in submitting a proposal, please refer to the CAJ homepage (<http://www.caj1971.com/>) for the submission requirements. We look forward to seeing you in Nagoya!

## 事務局報告

### 事務局からのご報告とお願い

#### 1. 会費納入のお願い

年会費の振込用紙を7月にお送りしました。未納の方はお早めにお振込みくださいますようお願い申し上げます。

#### 2. 学生会員・準会員登録申請締め切り

大学院生対象の学生会員、学部生対象の準会員としての登録は、7月末日をもって締め切りました。前年度学生会員または準会員であった方で、新たに登録をされなかった方は自動的に一般会員に切り替えますのでご了承ください。なお、すでに今年度の学生会員または準会員の会費を振り込み済みで、登録をされなかった方には差額を請求させていただきます。

#### 3. 住所等変更届のお願い

住所や所属が変更になった場合には、速やかに学会支援機構までメールまたは葉書でご連絡いただくか、学会ホームページのWeb システム上で変更をお願い致します。パスワードを忘れた場合、生年月日が登録されていれば、ご自身での確認が可能です。パスワードをお忘れになり、かつ、生年月日を登録されていない場合は、生年月日の登録を直接学会支援機構までご依頼ください。なお、年会費の振込用紙での変更届はできませんので、ご了承ください。

#### 4. ジャーナルバックナンバー、記念図書の購入申込みと閲覧・複写申込み

この度CAJのジャーナルが新しくなりましたが、これまで発行されたジャーナルバックナンバーなど学会発刊物をご購入されたい場合は、学会支援機構にお問い合わせください。国立情報学研究所の論文情報ナビゲータCiNii (<http://ci.nii.ac.jp/>) に、著者により公開可とされた論文が掲載されており、閲覧・印刷することができますので、こちらも是非ご利用ください。同サービスを利用せず、複写をご希望の場合は、学会支援機構までお問い合わせください。（住所はp.20に掲載）

## 広報局便り

### 第44回年次大会の広報局活動

第44回年次大会は、広告、展示とも多くの企業からご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

- ① プログラムの広告：京都書房、春風社、有斐閣、キャンパスサポート西南、金秀アルミ工業、日新電器産業、日新電機システム、(株)T&T、ディノス・セシールコミュニケーションズ、沖縄浄管センター。
- ② 書籍・教育機材の展示（全社両日）：三修社、榕樹書林。
- ③ 広報局では、次年度の大会にむけて、引き続き努力を続けます。皆様も、ご紹介いただける企業がございましたら、ぜひ広報局にご推薦・ご連絡をください。

### 各支部の年次大会等

支部ニュースに詳しい予定が掲載されておりますので、そちらをご一読ください。

### 広報局からのお知らせ

- ① ニュースレターの完全デジタル化について：兼ねてよりお知らせしておりました通り、CAJ ニュースレターは本号（107号）より完全デジタル化いたしました。理事会での慎重な討議を経て、当面はPDFをHPに掲載する方法で皆様にお届けすることになりました。今後、メールマガジン形式での配信等を含め、将来的な方向性についてはさらに議論を重ねて参りますので、会員の皆様からのご意見、ご要望をお寄せ頂けましたら幸いです。
- ② 学術局と連携して、HP掲載コンテンツの拡充ならびにレイアウトの見直しを図っていくことを計画しています。
- ③ 広報局では他学会の情報や教員公募情報なども積極的にアップしていくことにしております。現在も、いくつかの研究学会の年次大会案内や教員公募などの情報をアップしています。ぜひ、ご活用ください。
- ④ 皆様からも、国内だけでなく、海外の学会を含めて関連する講演会や研究会があれば情報として広報局までご一報下さい。ホームページにアップしたいと思います。
- ⑤ ホームページ (<http://www.caj1971.com>) は、適宜更新しております。ご意見やご質問を頂ければ幸いです。
- ⑥ 広報局では、CAJ ニュースレターへのご寄稿を募集しております。次頁の要領をご覧頂き、奮ってご寄稿下さい。

## CAJ ニュースレターへのご寄稿のお願い

日本コミュニケーション学会では、ニュースレターへの会員の皆様のご寄稿を募集しております。以下の要領で奮ってご寄稿下さい。

### ① 著書紹介

会員の皆様の著書を紹介するコーナーです。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の著書をご紹介下さい。和文で 250～500 字程度の原稿を受け付けております。

### ② コラム：コミュニケーション教育

コミュニケーション教育に関する実践報告、事例紹介、展望、論考、その他のエッセイを受け付けています。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ③ 書評

コミュニケーションおよび関連領域の著書に関する書評を受け付けております。和文で 1000～1500 字程度の原稿を受け付けております。

### ④ NL 表紙の写真

ニュースレターの表紙を飾る写真を募集しております。本学会の NL 表紙に相応しい写真がございましたら是非お寄せ下さい。(写真は、会員の皆様ご自身でお撮りになったもの、または著作権をお持ちの写真に限ります。また、写真内容が法令に触れないようご配慮下さい。)

いずれの場合も、ご寄稿頂けます場合には広報局ニュースレター担当の小山 (tkoyama@notredame.ac.jp) までメールでご連絡下さい。ただし、応募の状況、ニュースレターの紙面の都合により、掲載に関してご相談させて頂く場合もございますのでご了承下さい。皆様のご寄稿をお待ちしております。



# 支部ニュース

## 北海道支部

(支部長 長谷川 聡)

- (1) 7月より本年度支部役員体制で活動を開始した。今期役員会構成員は長谷川聡、足利俊彦、伊藤明美、水島理沙、山田晃子である。
- (2) 役員会を第1回7月9日(水)、第2回8月1日(金)に開催した。
- (3) 2014年度支部研究大会を11月22日(土)、藤女子大学北16条キャンパス(札幌)実施で決定した。基調講演をNPO法人いきたす「カタリバ北海道」代表理事・江口彰氏に決定し、演題を「『カタリバ』が織り成すコミュニケーションデザイン」とした。告知・発表演題募集を間もなく開始する。
- (4) 役員会では今後、支部の会員増と活動活性化の具体策を検討することで一致し、話し合いを進めている。

## 東北支部

(支部長 川内 規会)

### 【今後の活動予定】

第15回東北支部研究大会を下記の通り開催します。「コミュニケーションと現代社会」をテーマに、研究発表および学術局を交えたコミュニケーション教育の意見交換などを行う予定です。

日時： 2014年11月8日(土)  
12:30 受付、12:50 開会～17:30 閉会  
場所： 仙台青葉カルチャーセンター  
(仙台駅から徒歩7分)  
テーマ： 「コミュニケーションと現代社会」  
参加費： 無料  
懇親会： 18:00～20:00 駅周辺 (予定)

### 申し込み方法：

研究発表をご希望の方は、氏名・所属・連絡先・発表タイトル・要旨(200字～300字程度)を川内宛(k\_kawauchi@auhw.ac.jp)に、ご連絡ください。締め切りは10月6日(月)です。

東北支部では、4年間ご尽力いただきました前任の支部長小林葉子先生(岩手大学)にかわり、新たに支部長：川内規会(青森県立保健大学)、副支部長：市島清貴(新潟経営大学)をはじめとする新体制になりました。今後ともよろしくご依頼致します。

## 中部支部

(支部長 藤巻 光浩)

二点、案内させていただきます。

1. 以下のように支部大会を行います(無料)。

日時： 12月20日(土) 午後12:50時より開始  
(受付は12時20分より)

場所： 愛知淑徳大学星が丘キャンパス13A教室

内容： 基調講演は、池上重弘先生(静岡文化芸術大学)によるものです。池上先生は、在日外国籍児童の抱える問題を調査しており、その成果に基づき積極的に行政や地域に発信・提言をなさっている方です。外国籍の児童たちの教育、生活の問題、異文化コミュニケーションの在り方などに関する非常に興味深い内容になると思います。加えて、CAJ会員である日高勝之先生(立命館大学)の著作『昭和ノスタルジアとは何か 記憶とラディカル・デモクラシーのメディア学』(世界思想社)と、柿田秀樹先生(獨協大学)の著書『倫理のパフォーマ

『ス イソクラテスの<sup>レトリック</sup>哲学と民主主義批判』  
(彩流社)の合評会パネルもそれぞれ行う  
予定です。

2. 中部支部が発行しているニューズレター (NL) についてです (毎年、3月末に発行; URLは中部支部HPから、メニューの「ニューズレター」をクリック)。このNLには毎年10冊前後の書評が掲載されています。広く会員からの原稿を受け付けております。文字数は、1000字~2000字程度とゆるやかな拘束ですので、コミュニケーションに関する本の中で是非というものがありましたら応募ください (原稿の締め切りは1月末日、今井達也先生 (南山大学) まで送付ください。送付先:

tatsuya.utexas (アットマークを入れる) gmail.com

## 関西支部

(支部長 守崎 誠一)

2015年度の秋季研究会について、下記の要領で開催することが決定しました。

日時: 11月16日(日) 16:00~19:00  
場所: 「ニュートーキョー」(大阪駅前 第一生命ビルB2)  
テーマ: 酒席の場のコミュニケーション  
内容: 今回の研究会の特徴は、これまでの一般的な「研究会」の形式とは大きく異なり、「シンポジオン」(ギリシア語で「饗宴」の意味)として、冒頭から飲食をともにしながら語り合うという形式をとります。テーマは「酒席の場のコミュニケーション」とし、日本人のコミュニケーションの特徴として様々なところで言及されている“飲みかけしよん”について、多様な側面から語り合いたいと思います。話題提供者として、流通科学大学の中川典子先生に話題提供をしていただき、その後、参加者が自由に意見を交換するフリーディスカッションとする予定です。

です。

CAJ 会員だけでなく、多様な立場の方の意見をお聞きしたいと思いますので、ご興味のある方をお誘いの上、是非、ご参加ください。詳細が決まりましたら支部HPに掲載の予定です。

## 中国・四国支部

(支部長 Rudolf Reinelt)

- 中国四国支部は、第17回の支部大会を平成26年12月6日(土)に、愛媛大学愛大ミュージズ3F Room343にて行います。
- 第17回支部大会の発表者募集を行います。中国四国支部のメンバーに限らず、全国の会員の皆さんに申し込んでいただきたいと思います。

申し込み先:

reinelt.rudolf.my@ehime-u.ac.jp

件名: CAJcs14

締め切り: 11月7日(金) 17時。

必要事項: メールに、題目と和文または英文の要約を添付してください。

- 上記の支部大会などについて詳しい案内を含むCAJ中国四国支部ニュースレターを近日発行予定。
- 中国四国支部の2013年度支部大会の発表は、<http://web.iess.ehime-u.ac.jp/katudouhoukoku.html>に掲載します。ぜひご覧ください。

## 九州支部

(支部長 伊佐 雅子)

- 日本コミュニケーション学会九州支部20周年記念誌は10月1日発行の予定であったが、編集

作業が順調に進み、9月上旬には納品予定である。  
執筆者各位には郵送し、会員には10月4日の支部大会で配布する。

2. 第21回支部大会を10月4日(土)に大分市の「ホルトホール大分」(408 & 410 会議室)開催する。大会テーマは「介護・福祉とコミュニケーション」である。午前中は研究発表を行い、午後は、日本赤十字看護大学教授の鶴田恵子先生(大分出身で、支部大会実行委員長の清水孝子先生の姉)に、「地域包括ケア時代のコミュニケーション」という演題でご講演をいただく。基調講演後、3名のパネリスト(医師:佐藤俊行、看護師:生野秀子、家族代表&CAJ学会員:宮下和子(敬称略))と共にシンポジウムを行う。講演とシンポジウムは一般公開し、多くの参加者を期待している。
3. 支部紀要『九州コミュニケーション研究』(第12号)の原稿締切は、当初5月31日だったが、6月30日に延長された。4本の研究論文(査読)と1本の研究ノート(査読なし)の投稿を受理し、現在は査読中で、9月末に発行の予定である。
4. 大学院生の支部大会での研究発表に対する補助を今年度より実施する。

~~~~~  
~~~~~

## コラム

## コミュニケーション教育(第4回)

## 「コミュニケーション = 愛」は教育を救う！

吉武正樹 (福岡教育大学)

教育の「教」は鞭、「育」は愛を意味する。つまり、教育には鞭と愛の両方が必要である。同じことが囁(しつけ)にも言える。「しつけ」という語はもともと、着物を「仕付ける」とこと関係しているらしい。

着物を縫う時、あらかじめ形を整えるため仮に糸を縫いつけておくのがしつけですが、大切なことは、いよいよ着物が本格的に縫い上がると、しつけの糸をはずす、ということです。しつけの糸はもはや不要であり、それが残っていることはおかしくなります。この「はずす」ということが、子どもの発達にとっても重要な意味をもつのです。(岡本夏木『幼児期』p. 26)

鞭を打ち、仕付けたままでは、子どもはかんじがらめだ。愛しているからこそ、仕付けた糸をはずすことが大切なのである。

とは言っても、仕付け糸のはずし方は案外難しい。フリースクール設立のモデルとなったサマーヒル・スクール校長だった A.S.ニールは当時、盗癖のある子どもの無意識に君臨している権力としての父親像を壊すため、その子を夜中に起こしてニワトリ泥棒に誘いだし、一緒に隣の家に盗みに入ったという(隣家には事前に説明済みだった;堀真一郎『きのくに子どもの村の教育』)。奇しくも、文化庁長官だった故河合隼雄も昔の子供は「柿盗び」をよくやったといい、次のように述べている。

多くの親は良い子を育てようとして、単層的、単純な「よい子イメージ」を子供に押し付けてしまう。本来子供というものは、多層的、多義的な存在であり、悪を含むものなのである。親の監視が行き届きすぎて、子供は悪いことや失敗を通じて成長してゆく機会を奪われているのだ。(『対話する人間』p. 59)。

普通、盗みとは鞭打つてでもやめさせるべき行為だ、と思われている。しかし、愛は悪行さえも教育に変えうるのだ。一方、愛するがゆえに適切な距離感やタイミングを見誤り、つい先回りをして子どもの豊かな体験や貴重な失敗の機会を奪ってしまうことも少なくない。

まさか、コミュニケーション教育に携わる方々に盗みを奨励するつもりはないが、熱心さゆえに仕付けに気を取られすぎても、反対に、弊害として鞭や仕付けを放棄しても、子どもの本来性を奪ってしまうだろう。愛と鞭、盗みと解放、成功と失敗、安全と危険。綱渡りのようだが、その往還の「危うさ」にこそ教育の本質がある。空間(距離感)と時間(タイミング)への絶妙な感覚が求められるからこそ、教育はプロの仕事なのだ。

さて、今日の教育はどうだろう。罰として給食を食べさせない、子どものノートを踏みつける、学校やクラスへの適応に悩む子どもに声かけをしない、学級づくりができていないのに子どもたち自身の治癒力に過剰な期待をする。まさか!と思うだろうが、みな実際に見聞きした小学校での出来事である。今教育界から愛は干上がり、鞭だけが高かざされ、子どもたちは仕付けの糸で机に縫い付けられているのでは、と疑いたくもなる。

教育界を取り巻くこの「息苦しさ」は何だろう。赤ちゃんは心地よい胎内から外界へと飛び出た瞬間、二つの呼吸を始める。一つは肺呼吸。ヒトの命を支える生物的呼吸だ。もう一つは、コミュニケーションという呼吸。人は物理的存在であると同時に社会的存在であり、他者とのコミュニケーションという呼吸によって、自らが生きる「意味の世界」の新陳代謝を絶えず繰り返す。ひょっとして、私が感じる教育界への息苦しさは、コミュニケーションという呼吸の障害による「酸欠状態」のせいではないか。

教育学者佐藤学は、「学校や教室ほど対話の重要性が主張される場所もないが、[例えば校長訓話や職員室の会議のように]学校、教室ほどモノローグが支配している場所も[ない]」(『日本コミュニケーション研究』第42巻特別号、p. 10)と指摘する。一方、先の心ない教師たちによる数々の「奇行」の背景には、教員採用試験の合格率をめぐる大学間の熾烈な生存競争や、1年次から始まる過剰なまでの手厚い指導の日常化もあるだろう。あたかも試験合格が高等教育の最終目標であるかのようだ。その結果、教師になることは一職業への単なる就職となり、「自己」実現の延長でしかなくなる。教師の意識からは子どもという「他者」は抹殺され、「対話」も閉ざされてしまう。

コミュニケーションに命を吹き込むのは、「他者への愛」だ。ならば、愛ある「コミュニケーション」という社会的呼吸こそ、「酸欠状態」の教育に酸素を送り込む人工呼吸といえよう。24時間テレビではないが、「コミュニケーション=愛」こそが教育を救うのである。ふわふわした話になってしまったが、そんなコミュニケーション教育を探求したい。



## ▶ 日本コミュニケーション学会 2014年度 役員一覧 ◀

(2014年6月1日~2015年5月31日)

会長	五島 幸一	愛知淑徳大学
副会長 (総務担当)	青沼 智	津田塾大学
副会長 (学術担当)	守崎 誠一	関西大学
事務局長	清宮 徹	西南学院大学
副事務局長	高井 次郎	名古屋大学
副事務局長	鳥越 千絵	西南学院大学
副事務局長	森口 稔	京都外国語大学
学術局長	吉武 正樹	福岡教育大学
副学術局長 (ジャーナル担当)	坂井 二郎	東京福祉大学
副学術局長 (年次大会等担当)	野中 昭彦	中村学園大学
副学術局長 (年次大会等担当)	森泉 哲	南山大学
広報局長	高永 茂	広島大学
副広報局長 (ニューズレター担当)	小山 哲春	京都ノートルダム女子大学
副広報局長 (ホームページ担当)	今井 達也	南山大学
理事 (企画担当)	丸山 真純	長崎大学
理事 (海外渉外担当)	宮原 哲	西南学院大学
理事 (北海道支部長)	長谷川 聡	北海道医療大学
理事 (東北支部長)	川内 規会	青森県立保健大学
理事 (関東支部長)	綾部 功	東海大学
理事 (中部支部長)	藤巻 光浩	静岡県立大学
理事 (関西支部長)	守崎 誠一	関西大学
理事 (中国・四国支部長)	ルードルフ・ライネルト	愛媛大学
理事 (九州支部長)	伊佐 雅子	沖縄キリスト教学院大学
監事	五十嵐 紀子	新潟医療福祉大学
監事	筒井 久美子	立命館アジア太平洋大学

### 学会支援機構の連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚5-3-13 小石川アーバン 4F

一般財団法人 学会支援機構 日本コミュニケーション学会担当

TEL: 03-5981-6011 / Fax: 03-5981-6012 / E-mail: office@asas.or.jp

# NLの電子版への完全移行のお知らせと メールアドレス登録のお願い

日本コミュニケーション学会 広報局

日本コミュニケーション学会ニュースレターは永きにわたり紙媒体でお届けして参りましたが、本号より電子版に完全移行いたしました。当面はPDF版をHPに掲載する予定ですが、将来的には学会全体のメーリングリストを構築してのメールマガジンの配信も視野に入れ、さらに検討を続けていきます。つきましては、会員の皆様には、本学会HP（学会支援機構データベース）にてメールアドレスの登録をお願い申し上げます（下記の方法をご覧ください。）今後、NLの配信を含めた学会の広報活動を効率化し、会員の皆様とより情報価の高いコミュニケーションを取れますよう、ご協力をお願いいたします。

## メールアドレスの登録（変更）方法

- ① 本学会 HP (<http://www.caj1971.com>) にアクセス
- ② 左側メニュー「会員各種手続き（Membership）」をクリック
- ③ ページ中頃の「各種変更手続き」の下「1 オンラインでWeb登録情報確認・変更、会費残高照会のページ」をクリック
- ④ 会員番号とパスワードを利用してログインし、メールアドレスを登録（変更）して下さい。

\* ご登録いただきましたメールアドレスは、学会（学生支援機構）が責任を持って管理し、**学会からのお知らせの配信（および、これに係るメーリングリストの構築）以外の目的では使用しません。**

## 会員番号とパスワードの取得方法

- 会員番号は、学会からの郵送物の宛名ラベルの中に印字されています（10桁の番号）
- パスワードをお忘れの場合には、上記④の画面で、「パスワードの問い合わせ」をクリックして手続きを行って下さい。

## 編集後記

NL107号をお届けいたします。完全デジタル化に際し、装いも新たに、また、カラー写真も多く使用して、これまで以上に皆様に親しんで頂けるNLを目指して広報局内で議論を重ねて編集いたしました。初めての試みゆえにいろいろと不備もあろうかと存じますが、皆様のご意見をうかがいながら、さらに読みやすいNLの作成に努めて参ります。

なお、電子版第1号の表紙を飾る写真は、CAJ中部支部の宮崎新先生（名古屋外国語大学）よりご提供いただきました。学会章（ロゴ）にある桜の花びらともマッチし、新たなはじまりを象徴的に表現していただいたものです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

広報局ニュースレター担当 小山哲春